



Data

監督：オリヴィエ・メガトン
 製作・脚本：リュック・ベッソン
 出演：リーアム・ニーソン/フォレスト・ウィテカー/ファムケ・ヤンセン/マギー・グレイス/ダグレイ・スコット/サム・スプルーエル/リーランド・オーサー

👁️👁️ みどころ

『96時間』3部作を貫くテーマは、妻や娘を守るためなら何だって！そんな男の美学で、悪に立ち向かう男のアクションと知恵は還暦を過ぎててもなお健在！

その最終章では、元妻を殺され、その犯人に仕立て上げられそうになる中、良き夫、良きパパは、ものすごい奮闘を。

これにてすべての敵をなぎ倒したから、後はすべて安泰。さすれば、第4作目はないはずだが・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■前2作とも星3つだったが、本作は星4つ！■

リュック・ベッソンが、私と同世代である1952年生まれのリーアム・ニーソンをアクション俳優として起用して、製作・脚本した『96時間』（08年）は、当初は96時間以内に可愛い娘を救出しなければならないことが大きなテーマだった（『シネマルーム23』未掲載）。しかし、シリーズ第2作『96時間/リベンジ』（12年）（『シネマルーム30』未掲載）を経て、シリーズ第3作（最終章）となる本作では、「96時間」という制約はもはやどこにもなくなっている。しかし、愛する妻レノア（ファムケ・ヤンセン）、そして愛する一人娘キム（マギー・グレイス）の危機にあたって、その夫であり父親であるブライアン（リーアム・ニーソン）が、元従業員として持っている類まれなる戦闘能力を発揮するエッセンスは、本作も同じ。父と娘、夫と妻との絆を軸とした、そんなアクション映画である第1作『96時間』も、第2作『96時間/リベンジ』も私の採点は星3つだったが、最終章となる本作の採点は星4つ！

■□■良きパパ、良き夫ぶりもここまで度が過ぎては・・・■□■

2014年12月28日に観た『ニューヨークのバリ夫 (パリジャン)』(13年)は、『スパニッシュ・アパートメント』(01年)、『シネマルーム4』312頁参照、『ロシアン・ドールズ』(05年)に続く全3部作の完結編だった。しかし、12年も経てば登場人物は同じでも、それぞれが子持ちとなり、それぞれの生活も大きく変わっていた。それと同じように、本作も『96時間』、『96時間/リベンジ』に続く完結編だから、別れた元妻レノアと、その富豪の夫スチュアート・セント・ジョン (ダグレイ・スコット)、そしてブライアの一人娘キム、という人間関係の基本は不変。さらに、本作ではレノアが何者かに殺され、ブライアがその殺人犯に仕立て上げられる中、その捜査を担当するのがフランク・ドッツラー警部 (フォレスト・ウィテカー)、という人間関係も全く同じだ。

本作導入部では、まだ大学生のキムが、恋人の子供を妊娠してしまったことに悩んでいるのに、その誕生日に大きなぬいぐるみを持参するブライアの良きパパぶりや、元妻レノアからのラブコール(?)に応えるべきか否かを迷う(?)ブライアの良き夫ぶりが強調される。しかし、そりゃ父として、また元夫としていかなもの・・・?そんな妻の様子を見れば、レノアの夫であるスチュアートがムくれるのは当たり前。したがって、「もう自分の妻とは会わないでくれ」と真正面から言われると、ブライアは「男の約束」として「わかった」と言わざるをえなかったが、さてその約束の履行は・・・?

そんな風に意地悪く考えると、ブライアの部屋の中でレノアが死体となって発見されたうえ、ブライアがその犯人として警察に逮捕されたのは、ある意味で自業自得・・・。

■□■なぜ共闘できないの?それが脚本のミソだが・・・■□■

ブライアの格闘能力は、『トランスポーター』シリーズに見るフランク・マーティン (ジェイソン・ステイサム) や、『ボーン』シリーズに見るジェイソン・ボーン (マット・デイモン) 並みにすごいが、『96時間』でも『96時間/リベンジ』でも、それ以上に目立つのは、ICレコーダー、盗聴器、SDカード、パソコン等を駆使した情報処理能力の高さだ。レノア殺人事件の捜査の指揮を執るフランク警部は、ブライアがいとも簡単に逮捕されたことに逆に危機感を持ったが、これはお互いの能力の高さを認め合っているということ。したがって、「俺は犯人ではない」というブライアの姿を見れば、利口なフランク警部はすぐにそれを理解し、ブライアの協力を得て真犯人を捜すべく捜査の方向を決めなければならないはずだ。しかるに、なぜブライアとフランク警部の真犯人捜しの共闘体制が組めないの?

そうすれば、多分1番怪しい奴はレノアの現在の夫スチュアートだと捜査の方向が決まり、本作冒頭に登場するロシアン・マフィアのボスであるオレグ・メランコフ (サム・スプルエル) らの厳しい「借金取立て」のストーリーとすぐに合致するはずだ。しかし、そうしたのでは面白い脚本作り、面白い映画作りはムリ。百戦錬磨のリュック・ベッソン

は、それがわかっているからこそ、あえてそんな「弱点」には目をつむり、脚本の面白さを追求していくことに・・・。

■□■娘を守るためなら、車の破壊も校舎の破壊も！■□■

『96時間』シリーズ最大のテーマは、妻のため、娘のため、という家族愛。誰よりも妻想い、娘想いの父親だからこそ、妻や娘を守るためなら自分の命をかえりみず、元秘密工作員としての能力を最大限発揮することを厭わないわけだ。それはそれとしてある意味当然だが、ブライアン秘密工作員としての能力は国家が付与したものであるから、いわば「公」のもの。したがって、本来はその能力は公のために駆使されるべきで、妻のため、娘のためという「私」のために使われるのはおかしいはずだ。その点では、ブライアンは真犯人ではないと思いつつ、警察としての自分の任務はブライアンを逮捕し、裁判官に引き渡すことだと宣言するフランク警部の方が正論。しかし、必ずしも正論が正しいとは限らないところが本作の面白さだ。

多分ブライアンがあのまま逮捕され、裁判を受けることになれば、誰かが仕組んだとおりブライアンが元妻殺しの犯人であることの状況証拠はしっかり整っているから、頭の固い裁判官はブライアンに有罪判決を下してしまうだろう。そうなれば、まさに真犯人の思うツボ。したがって、そうさせないためには連行されているバトカーからさっさと脱出し、友人のサム（リーランド・オーサー）の協力を得て、警察から逃走しつつ自らの手で真犯人を捜し出さなければ・・・。ブライアンがそう考えたのも当然だが、そうかといって、その後に見るようにカーチェイスで車を何台も破壊していいの？そこでは膨大な死傷者も出ているはずだ。さらに、大学構内の女子トイレで密かにキムと密会した後、校舎に閃光

弾を投げて校舎を破壊し、スプリンクラーを起動させて構内から脱出してもいいの？きっと、そこでも多くの死傷者が出たはずだ。

まあ、リュック・ベッソン脚本の本作を楽しむためにはそんなくだらない正論(?)を捨てなければならぬのは当然だが・・・。



96時間/レイクエム<非情無情ロングバージョン>DVD発売中
20世紀フォックス ホームエンターテイメント ジャパン
(C) 2015 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.

■□■還暦越えの見事なアクションに拍手！■□■

本作後半からは、警察だけではなく、ロシアン・マフィアからも追われることになったブライアンの苦しい闘いが続いていく。冒頭に登場したロシアン・マフィアのボスであるメランコフとの対決が、本作ラストのクライマックス(?)になるが、後半のストーリーのミソは、なぜこのマフィアからブライアンが命を狙われることになったのか、と



96 時間/レイエム<非情無情ロング・バージョン>DVD発売中
20 世紀フォックス ホームエンターテイメント ジャパン
(C) 2015 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.

いうことだ。いくらブライアンでも、1人で山道を走っている車に、何の前触れもなく後ろから車を追突させて、谷の底に押し出されたら、どうしようもないはず。そこで、ブライアンはどうやって助かったの？また、死んだはずのブライアンが突然銃を持って現れれば、ブライアンをやっつけたはずの4人組の男たちがビックリするのは当然だが、コンビニ店内でのプロ同士の銃撃戦なら、1人より4人の方が強いのでは・・・？

さらに、スチュアートを痛めつけてその「自白」をとったブライアンは、スチュアートを協力者に仕立て上げて、共通の敵メランコフの居城となっているペントハウスに1人で乗り込み、見事メランコフをやっつけることになる。このクライマックスは、まるで昨年11月10日に亡くなった高倉健のヤクザ映画の美学とそっくり同じで、見応え十分だ。『エクスペンダブルズ3 ワールドミッション』(14年)で観た御歳67歳のシルベスター・スタローンのアクションも見事だったが、すでに還暦を迎えたリーアム・ニーソンの本作後半で見せる見事なアクションに拍手！

■□■真犯人は誰だ？娘を守るためならジェット機にも！■□■

2004年のカンヌ国際映画祭で審査員特別大賞を受賞した韓国映画『オールド・ボーイ』(03年)では、主演した韓国人俳優チェ・ミンシクの怪演と見事なアクションにビックリさせられた(『シネマルーム6』52頁参照)。それは、アメリカでリメイクされた『オールド・ボーイ』(13年)でも同じだった(『シネマルーム33』151頁参照)。この2

作はラストに見る「殴り込み」がホントのクライマックスだったが、本作は実はメランコフへの「殴り込み」がラストではなく、更にその続きがあるのでそれに注目！

その「続き」でのテーマは、レノアを殺し、ブライアンを殺人犯に仕立て上げようとしたのは誰だ？ということの再度の問い直し。つまり、ブライアンはスチュアートの自白と、それに続く芝居にまんまと騙されて、メランコフと闘ったわけだが、もしこれでうまく2人が相討ちしてくれれば、スチュアートの思うつぼ。昨年のNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』では、関ヶ原の合戦がわずか1日で終わってしまったため、九州で挙兵し、石田・徳川の両勢力が弱ったところで、自分が天下人になるうとした官兵衛の野望は消え去ったが、知恵者のスチュアートは、まさにそれと同じことをやろうとしていたわけだ。

スチュアートとレノアが互いに掛けていた生命保険の額は膨大なもの。レノアが死ねばその保険金でメランコフへの借金を返せるし、もしブライアンがメランコフをやっつけてくれれば、借金はチャラになるからスチュアートにとっては好都合。さらに、メランコフとの戦いでブライアンも死んでくれれば、これほど好都合なことはない。そんな戦略の下、スチュアートはブライアンとメランコフの死闘の頃合いを見てサムを殺害し、キムを連れて脱出するべく、準備していたジェット機へ。ここで飛び立ってしまえば、あとはすべて安泰のはずだったが、そこで黒いボルシェに乗って猛スピードで追っかけてきたブライアンは、何と離陸中のジェット機に体当たりしてきたから、もうメチャクチャ。娘を守るためなら何だってする。それがブライアンのモットーだが、こりゃ下手するとキムもろとも全員が死んでしまうのでは・・・？そんな心配もあるが、映画ではそうならないのが約束ゴトだから、ご安心を。

しかして、ラストのラストには再びブライアンは優しく、かつ物わがりの良いパパに戻って、キムの妊娠についてのアドバイスを……。それはあくまで付録だが、『ニューヨークの巴里夫（パリジャン）』3部作とちがいで、これにて『96時間』3部作は、無事完結するはずだが……。



96時間/レクイエム<非情無情ロング・バージョン>DVD発売中
20世紀フォックス ホームエンターテイメント
ジャパン
(C)2015 Twentieth Century Fox Home
Entertainment LLC. All Rights Reserved.

2015（平成27）年1月15日記